

近江商人小林吟右衛門家の経営書簡集（抄）九

——文久元年九月～十一月大坂店宛京店書簡——

末 永 國 紀

筆者は、昭和五九年（一九八四）から六一年にかけて、京都産業大学の『経済経営論叢』誌上に「近江商人小林吟右衛門家の経営書簡集（抄）」一～八（一九卷一号、同二号、同三号、同四号、二〇卷一号、同四号、二一卷二三号、同三号）を発表した。その後、筆者の京都産業大学から同志社大学への転籍にもなつて発表は中断していた。このたび、機会を得て続編を書き継ぐことになった。続編の再開にあたって、初編に所載した、小林吟右衛門家の書簡集と同家についての解説を若干敷衍して、まえがきに代えることにする。

寛政一〇年（一七九八）に本格的に行商活動を開始し、天保期以後呉服太物・生糸・小間物・紅花等を扱い、両替商を兼ねる都市問屋商人に成長した、丁子屋小林吟右衛門家（商号 丁吟、ちよんげん商標 ♪）の史料を集めた滋賀県湖東町小田町の財団法人近江商人郷土館には、弘化年間から昭和初期に至る本支店間の書簡集三三二冊が所蔵されている。書簡は近江国愛知郡小田町の本店への江戸（東京）店、京都店からの通信と、出店相互間の通信が中心である。それに横浜店、大坂店その他諸方からの書簡もある。これらの書簡類はそれぞれに分類してほぼ年次順に綴り合わされているが、弘化・嘉永期や江戸期の諸方からの書簡は断片的であり、年次にもバラつきがある。

通信文の内容は、世情一般から経営、家政におよび、全般的で多岐にわたっている。それは、景気や物価などの商況一般の報告、権力関係・株仲間関係など対外交渉関係、売買状況、仕入依頼、着荷報告、為替請払報告、奉公人の移動や勤務状況などの人事、災害や普請、冠婚葬祭など日常生活に関する事柄におよび、きわめて広範囲におよんでいる。しかも発信人や受信人はともに当主や幹部店員であるため、経営そのものの方針や動向についての彼らの所感も認められている。幕末期から明治期という近代社会への変革期における都市問屋商人資本の変動と適応の過程を考察する上で、まことに興味深い経営書簡集である。

内容膨大であるため、主として商業経営に関連すると思われる事柄を中心に抄出した。なお、書簡集の表題に江戸店書状とあっても、京店書簡が含まれている場合もあり、必ずしも一定しない。解説に際しては、当用漢字を使用することを原則とした。ただ、江・而・尔・者・与・々と廻・嶋・附・喰・緝・敷の旧字体はそのまま残した。各々の書簡の日付と内容の見出しをゴチックで示した。なお、符丁などについては、筆者の注釈を（ ）に付した。史料の句読点は筆者による。誤記と思われる箇所、意味不明の箇所で原文のままとしたときは（ママ）をつけた。史料文中の疑問の箇所には（カ）をつけた。

丁吟の出店開設年は以下の通りである。

天保二辛卯年年六月朔日開店

江戸堀留二丁目

江戸呉服店

店名前は丁子屋吟次郎

天保一三壬寅年九月二八日開店

京都六角通柳馬場

京店

店名前は丁子屋吟三郎、後に三文字屋万次郎、さらに明治になって沢田政七と改称

天保一四癸卯年開店

江戸堀留二丁目火見下

綿店

弘化二年三月二七日類焼のため、同年九月二九日に本町二丁目へ移転

文久元辛酉年二月一七日開店

大坂安土町二丁目

大坂両替店

店名前は丁子屋吟兵衛

伊勢藤倒産のため同年一月二九日閉店

明治一八年秋開店

横浜弁天町

近江商人小林吟右衛門家の経営書簡集(抄)九

横浜店 (生糸・絹物売込)

店名前はいりちよう今小林商店 (明治二五年六月朔日に小林源左衛門が丁吟東京店から独立して、生糸・絹類売込問屋今小林商店となる)

丁吟の別家は次の五軒である。

杉村甚兵衛 (天保六年入勤) 弘化三年二月二七日別家、商標[☆]

近江屋善兵衛 (入勤年不詳) 元治元年九月別家

薩摩治兵衛 (弘化四年六月二八日入勤) 慶応三年八月八日別家、商標^②

塚本善之助 (安政五年二月入勤) 明治二七年二月二四日別家、商標[☆]

沢田政七 (入勤年不詳) 明治三二年四月別家

〔文久元年九月より十一月末 京店より大坂店文通〕 (＃2301)

文久元年九月朔日

京金相場報告・古赤指値

朔日

七拾二匁

ホ 三分九厘

中 三百匁

五千の取入 赤 〆三百五十匁

一、古赤御差直被成候得共不出合之趣、調度都合宜敷事ニ御座候、当地も昨便申上候通り近々弱氣ニ御座候、今日も右之相庭ニ御座候、古赤跡氣配矢張五匁々十匁位弱氣ニ承り候、節前之処、外金詰り旁下落可仕哉ニ奉愚安候、乍併相庭物之事故、如何可相成哉、其辺之処頓ト不相訳候、仍而於御地取入方も以便申上候通り、先ツ詠メ之積リニ而左ニ

壹 〆三百四十匁位

少し見斗 千〇取入

右之通りニ而御差直之上、御執斗可被成下候、乍併御地振合も有之候間、情々御深考可被成下候

九月三日（京店幸兵衛より大坂店源次郎・清兵衛宛）

京金相庭・古赤取引と金貨引き換え

二日 七拾三匁

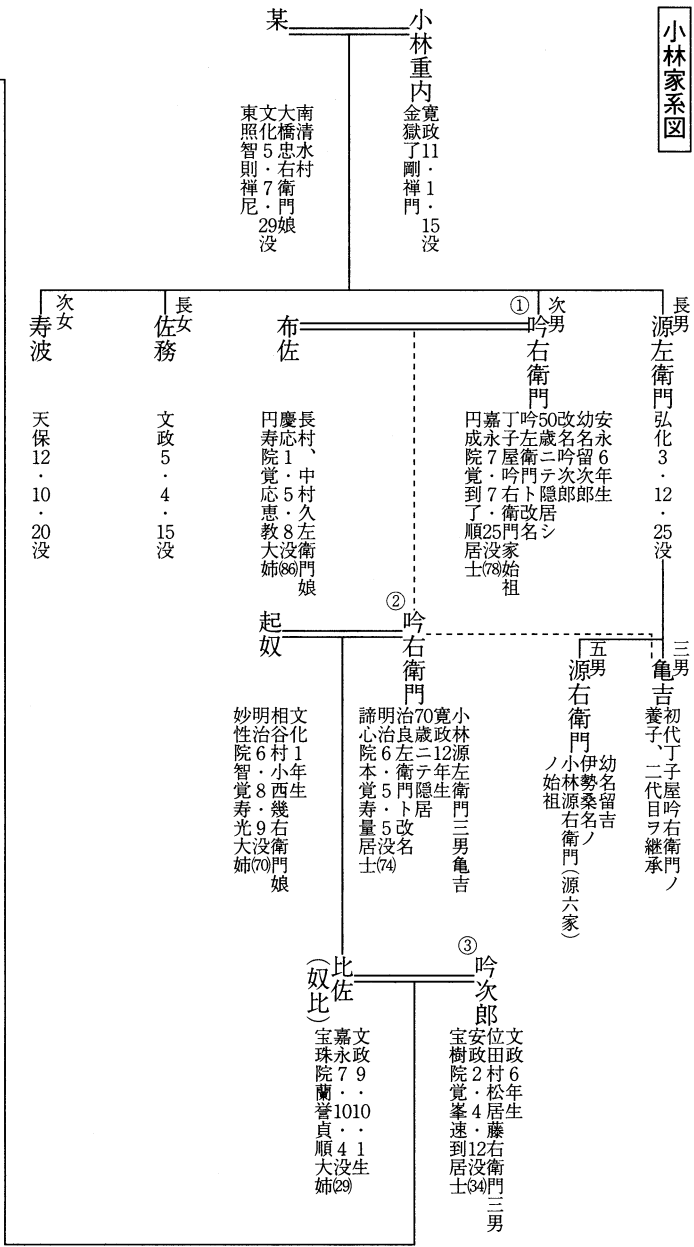
ホ 式分

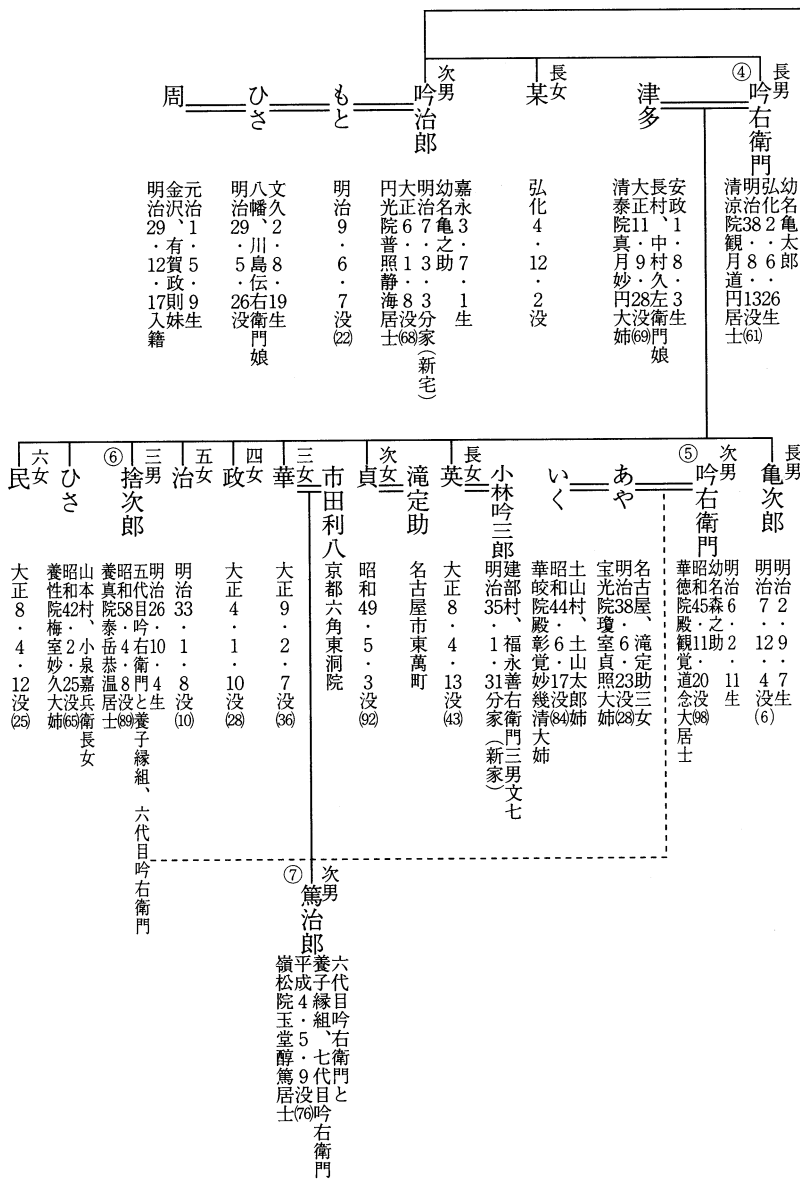
中 式百匁

三千〇取入 赤 〆式百廿匁

一、古赤之儀、差直と者不出合之趣、調度都合宜敷御座候、当地ハ追々下落ニ御座候、今日も跡氣配五匁位弱氣ニ御座候、仍而於御地取入方先ツ御見合せ可被成下候、〆四百匁少し見斗ひニ而千〇丈ケも弘方被成下、御詠メ可被成下候、亦々明日之振合ヲ以、色々御面倒可申上候、右古赤下落も別段貧荷物ハ決而無御座候、全ク外金詰り之

小林家系圖





様子ニ御座候、尤当所ハ明三日より御為替ニ而保字金正字金御引替相始り候御触有之、旁以外金猶更扨底ニ御座候、仍而正金も右之相庭ニ御座候、猶此末如何変化可仕哉、頓卜不相訳候

一、此度伊藤殿へ古赤為替取組左ニ

九月二日

但し

入金三千両也

古式朱金ニ而伊藤屋藤兵衛殿差函へ

京百八十式写

右炭安殿へ手形振出し候間、無相違相渡被成候様例之通り御案内可被成置候、尤も右※(炭安)方ニハ三千三百〇之処へ、右三千〇振出し候間、※方ニ古赤少しニ相成候間、㊦(紀伊国屋正三郎)方ニ有之候古赤千五百〇、※方へ御振かへ置可被成下候

九月三日(幸兵衛より源次郎・徳兵衛宛)

京金相場と古赤取引

三日

七拾式匁九分

ホ 壹分四厘

中 五拾匁

三千〇取入

赤 〆式百拾匁

一、先日廿八日ニ㊦ニ而古赤千〇取入分、相尋申上候処、御細文ヲ以御請被下、難有承知仕候、大イニ手数御懸リ申上候段、御仁免可被下候、猶其外取入多分ニ相成候段、成行御答被下、是亦承知仕候、於当地追々延売仕候間、

不引合之儀ハ聊不仕候間、此段御安心可被成下候、御同前ニ相庭物之事故、一日ノニ氣配等も相変り候ゆへ、
彼是御面之段、御仁免可被下候

一、当地古赤之儀も、頓ト見止メ不相付候、何分外金詰り、旁右下落仕ニ準し売人沢山ニ相成候訳柄ニ御座候、併乍
今日ハ跡氣配三匁位強氣ニ御座候、明日ハ如何ニ相成候哉、頓ト不相変候、仍而於御地取払共先ツ御見合可被成
下候、於当地其日々ノ懸引ニ而心見不仕候、亦々振合ニより色々御面倒可申上候、且亦古式歩も不怪下落仕候、
扱々恐敷事ニ御座候

九月四日

京金相場・古赤売却・京阪間の銀相場格差による利ざやに着目

四日

七拾式匁八分

ホ 壹分式厘

赤 ヂ四百匁

跡七十匁引ケ

一、古赤之儀、追々下落仕候処、今日者当地右相庭ニ御座候、乍去跡氣配七拾匁位弱氣ニ御座候、如何之訳合哉、頓
ト不相訳候、仍而取入方ハ先ツ御見合可被成下候、御地明日左之直段位馴バ千〇丈御払見可被成候、

壹メ四百匁位

見斗 千〇払

右払方可被成候、当地ハ先便より申上候通り、何分外金詰りニ御座候、別而節前之事故最卒下落仕、取入之場所

も可有之哉ニ奉存候、乍併相庭物之事故、此末如何可相成候哉、難斗奉存候得共、先ツ右之心組ニ御座候、宜敷御執斗可被成下候

一、九月八日限江戸為替手当ニ、相手次第第三日之内御振向被成候段、承知仕候得共、前日ニ御振出しならば却而当方より下し金可仕方、都合宜敷候、於御地入用之日限ニ取組被成候得者、於京地翌日渡しニ相成候事故、可相成者、御取組被成候様申上候儀ニ御座候、何ニも兩三日前より御取組ニ相成候者、却而不都合ニ御座候、右等之迎篤卜御深考御執斗可被成候、且亦鳥渡申上候、頃日正金相庭、御地と当地ハ格別相開キ候ニ付、当地ニ銀取入、御地へ銀下し仕、於御地銀払方仕候得は、随分利方ニ御座候、殊ニ寄と右方之執斗可仕哉も難斗御座候間、九月八日限入用之当余り、前日より為替御振向ニ不及候、此段乍序奉申上候

九月六日

京金相場

六日

七拾貳匁貳分五厘

ホ 九厘

中 百匁

赤 〆三百七十匁

昨五日出之御芳札難有拜見仕候、然者古赤払方差出し被成候得共、不出合之趣承知仕候、当地今日跡氣配少し弱氣ニ御座候、併明日ハ如何可相成哉、難有奉存候得共、於御地取入方左ニ

壹〆三百匁内

千〇取入

右千〇丈位御取入可被成下候、於当地も安直ならば取入可申心組ニ御座候

九月七日

京金相場・古赤売買・下し金六千両

七日

七拾弍匁五分七厘

ホ 無し

中 百廿匁

三千〇取入 赤 〳〵三百四十匁

中略

古赤払方被成下候段実ニ都合宜敷候、於当地今日取入方三千〇仕候、左候得者、相応之利喰ニ相成候、仍而明日於御地取払左ニ

壹〳〵三百匁内

千〇取入

壹〳〵四百匁より

払

千〇

壹〳〵四百五十匁

払

弍千〇

右之振合ニ而取払共御註文可被成下候、尤も今日跡氣配先ツ同様之事ニ御座候、延印ハ矢張九月限メ六百匁位ニ承り候、此段乍序御達申上候

一、京為替三軒共思悪敷無御座候趣、仍而下し金可致旨、承知仕候、則今便左ニ

九月七日

一、金六千兩也

伊藤印元手

写

紀正出分

右今便差送り候間、其差御改メ御入手之上、可然御請払可被成下候

九月八日

京金相場・古赤売買

八日

七拾貳匁六分五厘

古中 百五十匁

ホ 六厘

五千〇取入

赤 壹メ三百五十匁

一、今便古赤取払可申上候間、可然御執斗可被下候

一、古赤 千〇取入

壹ノ三百枚

一、同 千〇払

壹ノ四百匁より

右之通御執斗可被下候

九月十日

古赤売買・京金相場

——前略——

古赤払実ニ都合宜敷御同慶奉存候、今日当地跡氣配五匁位弱氣ニ御座候、乍併明日ハ如何可相成哉、頓ト不相訳候、於御地払方可被成下候、当地ニ而取入可仕候、払直左之通り

壹ノ四百匁

少し見斗共 千〇払

右払方、可被成下候

——中略——

九月十日相庭左ニ

七拾弍匁四分

ホ 八厘

中 百八十匁

赤 〳三百三十匁

九月十一日 (幸兵衛より源次郎・徳兵衛宛)

京金相庭・古赤の積極的利喰

十一日

七拾貳匁五分壹厘

ホ 七分

中 百八十六匁

貳千〇取入 赤 〳三百廿匁

昨十日出之御芳札難有拜見仕候、然ハ古赤取払共差直申上候処、初相場之事故、払方御見送り被遊候段承知仕候、乍併先便より申上候通り、頃日ハ御地ニ而払方於当地取入仕候得者、相応の利潤ニ相成候間、千兩位ハ払方被成候得者、大ニ都合克奉存候、乍併見送り被成候段ハ、致方無御座候、当地ハ右之相庭ニ御座候、跡氣配先ツ同様ニ承り候、乍併京地ハ兎角外金詰り之加減ニ御座候哉、古赤払人勝ニ相見ヘ候、乍併相庭物之事故、如何可相成哉、頓卜難斗奉存候得共、於御地明日払方左ニ

壹〳四百匁

見斗ひ

千〇払

壹〳四百匁

外 式千〇払

十匁より

右位ニ而千〇位ツ、日々払方可被成下候、京地相庭毎日〳〵御地へ相訳り候間、利喰ニ相成候ハ、少し位ハ何ケ様ニ而も不苦候間、払方可被成下候、京地右申上候通り、正相庭下落故哉、延取引も大キニ弱氣ニ御座候、夫故延売も先ツ見送り居候間、当分売買利喰ニ仕度候、尤も御地ニ古赤預ケ無御座候共、㊦、※方ニ而古赤当分カリ被成候ても、都合宜敷奉存候、尤も外金ヲ預ケ置御訳合ニ御座候間、其位之懇談出来可申哉ニ奉存候、別而㊧ニハ当世日切古赤三千〇別口も有之候段、訳合ニ御座候間、右ヲ立用ニ仕候得者、実ニ都合克御座候、此段御深考之上、宜敷御執斗可被成下候

九月十七日

京金相庭・古赤利喰・古赤相場

十六日

(七拾カ)式匁三分九厘

式千〇取入 赤 壹ノ式百匁

中 百匁

昨十四日出貴札相達し忝拝見仕候、然著古赤取直不出会之旨、承知仕候、当地儀右之成行御座候、今便払方左ニ可申上候間、可然御執斗可被下候

一 千〇払

卷ノ貳百八拾匁

右之通り弘方可申上候、今日取入仕、利喰可任心得ニ御座候、左様御承引可被成下候

十七日

七式匁三分九厘

赤 卷ノ貳百七十五匁

中 百匁

ホ むじ

昨十六日出御尊翰難有拝見仕候、然ハ昨便ヲ以夫々申上候得者、御承引被遊可被下奉存候、古赤取弘御詠メ被遊候趣、承知仕候、誠ニ不烈敷荒高下ニテ御用心分見留メ不相附奉困入候、取弘者御地方暫く御見送り被遊、又々振合替り候ハ、可申上候

九月十八日

京金相場・古赤売買

十八日

七拾式匁三分三厘

赤 卷ノ三百四十九匁

中 百拾匁

ホ 本壹分

昨十七日出貴札相達忝拜見仕候、然者古赤取直被成候処、不出合之趣、承知仕候

一、今便取払左三

一、赤 千〇 取入

壹ノ貳百五拾匁

一、赤 千〇 払

壹ノ三百五拾匁

右申上候間、可然御執斗可被成下候

九月廿日

京金相場・古赤相場の状況・江戸為替取組と打銀

廿日

七拾壹匁五分

中 八拾匁

千〇取入 赤 壹ノ貳百四拾八匁

昨十九日出貴札相達忝拜見仕候、然者古赤御差直被成候処、出合不申趣、承知仕候、当地儀右之相庭御座候、頃日者日々狂イ荒く相成、依之当分貴地方取払共相詠可申心得ニ有之、併明便ニも相成、亦々取払可申哉難斗候得共、今便者貴地來状着いたし其時之振合を以可申上候、当地儀乱相庭故、頓下見当メ相訳り不申、心配仕居、夫故日々御面倒可申上候得共、不悪思召可被下候、比日ハ当地利喰斗り致居候

追啓申上候、然ハ江戸店方近々為替振向参り候ニ付、於大坂江戸為替出合在之候得者、打銀之模様ニ而炭安、㊦方ニ而當時打銀振合御尋被成取組被成候様致方、尤当分打銀三拾匁位ならば三千兩斗取組江戸店へ貴店より手形振出し被成下候、乍併手形御認メ被成共、日限書人当月晦日敷、十月朔日二日頃江戸渡しニ相成候様、取組対談可被成下候、尤打銀者前条之通り百兩ニ附三拾匁迄差出し被成候共、宜敷候間、貴店より打銀申出し不被成、先方へ振合相尋情々利口ニ懸合御取組被成候

九月廿一日

京金相場・古赤下落・吟右衛門一行の下坂

廿一日

七拾匁五分

赤 壹メ式拾匁

古中 百匁

昨廿日出貴札相達し忝拝見仕候、然者古赤不出合之趣、承知仕候、且当地義不怪天下落明日者如何可参難斗候得共、取入之儀、当分御見送り可被成下候

一、今便払、左ニ可申上候

一、赤 千〇払

壹メ八拾匁

右之通り御執斗可被下候

一、御主人様、おふんさま、万次郎様、外ニ子供老人夕船御出船被遊候間、諸事御相談被下御都合宜敷御執斗御

願申上候

九月廿三日

京金相場・古赤天下落・三千兩の江戸為替取組と打銀

今廿三日

七拾匁三分

赤 壹貫匁

古中 五十八匁

廿二日出貴札難有拝見仕候、益御安情可被遊御座珍重奉賀候、然者古赤昨日ハ御地も不怪天下落、扱々相庭物高下見留メ相付不申、御同前心配奉存候、当地も昨日跡気配ニ而ハ余程強氣ニ付少々も今日ハ扱方可致心組之処、御地ハ登り相庭天下落ニ相成、頓と見留メ相付不申、御差図之通り当分詠メ居候、尚明日ハ貴地来状任差図執斗ひ仕置候

九月廿二日

一、金三千兩

江戸為替取組かし

安百九拾五 貳千〇

安百九十六 千〇

当晦日江戸渡

九月廿二日

入 七百五拾兩

廿五匁替

安百九拾五

右打銀かり

百九拾六

九月廿四日

京金相場・古赤相場・伊嘉（伊勢屋嘉藏）へ古赤五千兩の貸付

廿四日

六拾九匁八分八厘

赤千〇取入

赤 九百匁

古中 四拾三匁

一、古赤相庭之義、貴地者昨日存外引立申候、何角御見込も少し之事と奉存候、当地も当分詠メ居候積リニ御座候へ共、安直ならば多少取置候共宜敷、先見込御申越被下、今日捨註文差出し置、千〇丈ケ取入ニ相成候、御地相応之直印ニ御座候へハ、払方可然と奉存候、宜敷御深考奉願上候、当地者如何之見込ニ相成候歟、取人無之、払人斗リニ相成候様子而、今日存外大下落仕候処、場所商内跡氣配三四十匁引迄払人在之趣、扱々見込相付不申、明日者如何相成候歟、相場物難斗候得共、先ツ下直ニ相成候哉ニ被存候、余り下落ニ相成候而者、当晦日取引皆無ニ相成候哉ニ風説仕候ものも在之、色々心配之義ニ御座候、尤三メ匁間銀位ニ而破断被申懸候事ニ相成候ハ、存不申候間、持ものニ相成候訳ケ合ニも御座候哉ニ申ものも在之候得共、御互ニ顔立ニ而取引仕候義者無躰之義ニ相成候訳ケニも不相成候哉ニ被存候、頓卜当時之処而ハ行末不相訳、一同心配在罷候、中久様判別家御一統中ニ而、今

日之処破断、何角ニツ吉(二十)万斗り持ものニ相成候由、乍併当晦日取引之振合も御座候間、晦日ニ相成候ハ、相庭引上ケ、直合流しニ工風被成候方も御座候哉ニ申ものも在之、頓と見留メ相付不申、何分当晦日ニ相成候半で治定不相訳、延取引者成行より致方無之、何分荒々數日々高下ニ付、見留メ不相付、御地之相庭払方ニ而、当地取入候ハ、多少口錢ニ相成、何角御深考貴地引下ケ不申氣込之処、御聞糺振合御申越可被遊下候様奉願上候一、◎宗助儀、御店へ出張之趣、付而者当月廿八日限、赤モ大丁(五千両)今壹ヶ月延し呉候様御申被成候趣、折節御主人様留守中ニ而、嘶し合不被成、承知仕、一昨日右之振合も伊嘉書状ヲ以尋越ニ御座候へ共、竹川氏者先達而初手合ニ執斗ひ仕候事ニ付、右様手弱キ申懸も不被成候哉ニ被存、当時之高下ニ付、伊嘉殿為融通被申候哉ニ心付キ候ニ付、当方も兼而当晦一切赤一条、相片付申度心組ニ付、別而初而之手合より、彼是致義者、不宜數候様被存、返金被成候様、伊嘉方へ申遣し、貴面談合と申述置候処、伊嘉も昨朝参り候処、留守ニ而、不相訳、同人取極メ之上、御地へ御沙汰可申積ニ而、入割不訳申故、不申上候処、当方も返書も御地へ相廻り候よし、全竹川方も申越之趣、定而御地ニ而可然御談合可被遊事と奉存候、尤も古赤之義ハ、何れ当晦日ハ多少入替仕候ハ、何れニも相成候哉ニも被存候へ共、取引向振合之義ニ付、前条答置候義ニ御座候ハ、御地より明便取究り御申越之趣ニ而、其着承り可申、尤伊嘉殿ニも夜前一寸御目懸り、右一条一旦取引済ニいたし来月ニ相成候而、其振合ヲ以貸遣し被下候而も宜敷事ニも被申居、何分於御地今日御談合可被遊候と奉察候

九月廿七日

京金相場・古赤相場の動向・紀正への古赤貸付・古赤相場に関する江戸来状

廿七日

七拾壹匁四分貳厘

赤 八百三十拾匁

中 三十拾式匁

跡氣配 赤十匁上ケ

取引無数

一、古赤義、当地も昨日千〇払方仕、仍而今日者利喰安直ならば少々取入申置候へ共、引立申候間、不出合、最早先日之シ大丁(六千両)丈ケ高直之持ちものニ御座候へ共、当晦日ニ者如何相成候歟難斗、元来当晦一片付可致積りニ御座候ハ、最早少々之利喰位ならば相詠メ、又来月ニも相成候ハ、振合も相變り候哉ニ奉存候間、相詠メ居候、可然御差図可被遊可被下候

一、紀正殿赤三三ヶ月廻し置由、被申候趣、当地当晦日入替之義も多少可在候得共、当時赤大高下ニ付、当晦日者赤勝負一軍サニ御座候間、変化之模様ニ而何と相成候歟、ハ(星久)方も今日之処右下落ニ付、追々損毛相払被成候由も在之、入替足も下直ニ而候様被申居候間、取究りも不致、何れ後便振合可申上候、仮令紀正へ赤貸仕候共、十一月限位迄之事、可然と奉存候、殊ニ京にて返金晦日間似合候様御取極メ宜敷、乍併頃日赤蓮中も混雜仕候間、入替杯之義も今少し訳り兼、明便振合可申上候、左様御含置可被下候

今日之処、※ハ赤借ニ相成候へ共、当晦日記正殿ニ而御渡被成候共、又者当地振合ニ而赤貸可被遊候ハ、赤下し候共、暫之間之事故、※ハ借置被成候共、外金貸ニ相成候ハ、不苦候様被存候

江戸来状之内、古赤見留相付不申候得共、中居嘉兵衛様談事仕候ハ、見留メハ相付不申候得共、心服ニ而強氣含居

被成候半と、被察候様申越候

九月廿八日

京金相場・星久、松居太七や両替商の古赤取引の状況

廿八日

七拾壹匁

赤 八百十匁

中 三拾七匁

赤跡気配五匁下り

一、当晦日取引赤方連中之内、乱方申仁も在之内、当晦日取引相滞候而者、甚混乱仕候間、伊貞印方難渋之方ハ十月限ニメ式百匁引受候様申出し被成候而、何れも今日之処、取引相立可申氣込ニ相成候、仍而此間中赤連中ハ、昼夜色々心配申立居候族も在之、先ツ今日ニ而ハ前条之気分ニ相泥み同様被存候

一、当方取引向も伊嘉も無別条取引対談詰仕候、艾方も昨日御入来取引別条無之、同人方ハ是迄十分勝利ニ付、此度モ大丁（五千匁）斗損金可仕申被成候、伊次方当晦日立相庭直合ヲ以、下店分ツ大（二千）取引可致、イ万〇（二万匁）者、問銀五拾貫匁晦日ニ受取、当分取引見送之対談仕候、ハ今朝拝顔、両方共手形両替へ振向ニ而、埒明之事、万猪今日御出被成、当晦日無別条取引可仕候様対談詰、右ニ付御安心被成下候

一、ハ太（松居太七）様も当晦日、赤入替頼込ニ御座候へ共、先日方損金見切、余程売払被成候間、外金手積り十分ニ相成、殊ニ比日入替直段も下落ニ相成ワ朱（八朱）ニ而外々ニも申込在之様被申、先日御受込御力ニ被成下候

間、手当ニも被成下候ハ、ワ朱ニ而相頼可申様被申候ニ付、下拙方ハワ朱ガへ望不致、何方へも売口在之、先達而方御頼込ニ付、聞入置候義故、聊返弁不苦相答候処、先方も誠ニヘイダリモイダリ御面倒仕候義、種々厚御礼述被居、重而御願申候と被申演候

右同人義も盆前見込違又候盆後方見込大違ニ相成、損金ニ相成候間、向後下店之通り手堅ク仕候杯被申居、尤比日ハ焼跡之釘ひろひと申事ニ候得共、一兩度利喰取払ニ漸々三ノ匁斗徳銀仕候様被申居候承り候得者、御氣之毒ニ存候

一、赤も入替少々ハ在之候而も京坂自由ニも相成候様被存候ニ付、今日万猪殿御出被成、入替嘶も在之候ニ付、当晦日方十月差入迄外金当方方渡、赤取置、入替壹万〇約定仕候、尤十月限月壹分壹ヶ月ニ御座候、尤、太之替りと存、取極メ仕候、左様御承引可被成下候、左候へは紀正方赤にて貸延被成候共宜敷、乍併[㊦]手形之振合にて晦日前々京返金之貸方弁利宜敷被察候、併御地御都合御考之上、可然御執斗ひ可被遊被下候

一、和宮様、十月二日、祇園参詣被為遊候趣ニ付、堺町より三条、夫より東へ御幸之由ニ候

九月廿九日

京金相場・竹川五千両延為替・古赤相場

廿九日

七拾壹匁四分

中 三拾四匁

赤 七百八十匁

跡三五匁引ケ

昨廿八日出之御芳札難有奉拝見候、然ハ紀正殿差引辻委敷御印被下引合候處、相違無御座候、且又竹川方古赤五千〇、今巷ヶ月延為替ニ相成、利足御受被下、且其外請弘共夫々被成下、当方も記帳仕候、此談御安心可被成下候——以下略——

一、古赤今日場所氣配不宜敷、右様氣配相直リ不申候而者、明日取引方差支候族も在之趣ニ付、明日者引上ケ度氣配ニ御座候へ共、相場物之義ニ付、銘々腹中ニ懸引御座候間、何と変化可仕候歟、難斗乍去順道之氣込ニ而ハ、弱氣之趣ニ御座候へ共、色々含筋等も在之候ハ、何れニ而も明日者、高下変化在之候様ニ被存候、上り共下り共一円不訳見込日ニ御座候由、内々承り候、乍序奉申上候、宜敷御懸引可被遊被下候、先ハ右申上度、早々以上

九月廿日

京金相場・古赤相場

卅日

七拾壹匁三分

中 三十式匁

赤 六百五十匁

一、当地古赤今日者不怪引下ケ、右六五ニ御座候、跡氣配先ツ同様之事ニ承り候、扱々恐敷事ニ御座候、仍而於御地取弘共、先ツ御詠メ被遊候、又々明日之振合ニ而御面倒可申上候、乍併七百七八十匁位、千〇も弘方ニ捨証文可被成候、併御地之振合御考取斗ハ奉願上候

十月朔日

京金相場・古赤相場・書簡筆記の際の注意依頼

朔日

七拾匁七分九厘

中 三拾四匁

赤 四百七拾匁

——前略——

当地ハ昨今存外下落仕候、仍而於御地取払共先ツ御詠メ可被成下候、右様色々変化仕候而者御同前ニ見止メ不相付候間、当方より差図申上候迄、不調法無之様專一ニ御執斗可被成下候

——前略——

尚又乍序申上候、㊦差引ニ八百九拾兩ト相見ヘ候ニ付、㊧方ニハ右金高無之筈ニ候間、段々評議相詠メ候処、全ク金と申処之書様、余り銘筆過、八百と相読メ候事ニ御座候、右ニ不限、惣而諸字人ニ読メ能様、御染筆可被成下候、尤先日之文通ニも、大と三と相訳り兼候処有之候、右様之儀、甚々以申上兼候儀ニ御座候得ども、皆々様右ニ可申遣候様評議ニ御座候間、申上候、必ス御氣ニ不障様御願申上候

十月三日

和宮祇園社参詣

一、今三日、和宮様御首途かどでニ而、祇園様へ御参詣ニ御座候、尤道筋者堺町三条繩手祇園町八軒新幸道御社ニ御座候、右

道筋ハ扱々御混し合ニ御座候、尤拝見不相成候事、往来留メニ御座候、右故火の用心者勿論、人集事無用之事、右ゆへ今日ハ金相庭会も止メニ御座候、夫ニ准シ商売休同様之事ニ御座候、此段乍序奉申上候、如斯御座候、早々以上

十月五日

京金相場・古赤取引

五日

七拾匁五分五厘

中 拾七匁

六千〇取入 赤 六百五匁

一、古赤扱方之儀、昨日当地方御頼申上候得者、定而御執斗可被成下候哉と奉存候、又々今日当地ハ下落仕候、則六

千〇取入ニ相成候間、於御地明日扱方左ニ

六百四拾匁方

二千〇 扱

右扱方可被成下候、当地跡気配ハ少し弱気ニ御座候、於御地取入ハ無用

十月六日

京金相場・古赤取引

近江商人小林吟右衛門家の経営書簡集(抄)九

六日

七拾匁九分

中 廿匁

赤 二千〇拾 赤 六百三十匁

昨五日出之御芳札難有拝見仕候、然ハ古赤弘方差直申上候処、夫出合之趣、承知仕候、今日当所ハ右之相庭、跡氣配少し強氣ニ御座候、乍併跡氣配も頓卜当テニ不相成、今日右三千〇弘方仕候、猶亦於御地、明日左之通御執斗可被下候

古赤 六百八拾匁

二千〇拾

右紀正殿ニ而弘方註文可被成下候

七拾壹匁迄

金 八百兩也 取入

銀弘之事

右必印へ、金取入方御註文可被成下候、右両口とも御主人様御直認、別紙御覽可被成下候

十月八日

京金相場・古赤買入

八日

七拾壹匁九分

中 拾三匁

四千〇取入 赤 六百六十五匁

一、当地古赤跡氣配、五匁位強氣ニ御座候、今日当方ハ右四千〇取入仕候、此段乍序奉申上候、猶其外要用御請申上
筈ニ御座候得共、最早用済文略御免可被下候、先ハ右申上度、如斯御座候、早々以上

十月九日

京金相場・古赤買入

九日

七拾老匁五分五厘

中 廿匁

五千〇払 赤 七百廿匁

一、昨八日於御地古赤三千〇取入候分、調度都合克御座候、乍併利喰ニ相成候も、払方被成下方可然と奉推察候、又
ハ御主人思召ニ而御差づ可有之候哉、此段鳥渡申上候、今日ハ当所右相庭ニ御座候、尤跡氣配廿匁位強氣、乍併
頓卜当テニハ不相成候、此段乍序奉申上候、猶其外諸用向用済之儀、文略御免可被下候

十月十日 (二代目吟右衛門筆)

京金相場・古赤取引・両替引替え金十方両上せの噂・遊金入替

十月十日

七百五十匁 七千〇払

七十五匁四分

七千払 赤 七百五十匁

中 十三匁

◎ 四分一厘

当九日古赤払方不被成候間、誠ニ都合能御座候、全く残り有物次第相庭埒明ケ候様、申遣し候義ニ御座候、書状一日宛違ニ付、行違ニ取入被成候義故、昨日ハ払方心配致居候へ共、程能不出合候間、一入安堵致し候、此後ハ取払とも毎日差直被成候、扱先達而テ十万兩御地へ登り御引替被仰渡候趣噂も有之候、其後如何ニ相成候歟、兩替ニテ御尋被成、振合御しらせ被成候

- 一、此節、御地遊金有之候、誠ニ残念ニも被存候間、入替ニ致し置、古赤取置候ハ、宜敷候間、十一月迄ニケ月、打金何程歟御尋被成候、十一月限ニテ月壹兩相成候ハ、一式、式ヶ月式兩ニ候ハ、廻し度候、入替取極被成候共宜敷候、古赤取置可被成候、炭安、紀正両家へ古赤預ケ被置候ハ、都合能察入候、此段御心得迄申入度候、以上
- 一、当時不用之金子ニ候ハ、京都へ為替無用候、京都ハ入替殊之外歩合宜敷候間、京ニテ廻し方利益ニ相成候間、此段御心得置被成候、此頃別而金つまり分合高直ニ御座候間、其旨御承知被成候、但し入替金高メ九千兩斗可被成候、其余ハ京ニテ貸金割合能御座候

十月十一日 (二代目吟右衛門筆)

遊金による古赤取入の諸方策・京金相場

- 一、先便ニ鳥渡申入候、御地古赤取置外金貸渡し、十一日限打金何程歟、右御尋可被成候、殊ニ寄候ハ、取組度候間、早速御尋可被成候、此頃京地流行ニ御座候
- 古赤預り置候ハ、渡し方入用之節、払方致し候間、御心得可被成候、此頃無利足遊金誠ニ残念ニ存候間、篤卜御

深考被成候

一、此頃京地貸金致し持合無少薄く相成候間、於御地遊金丈ヶ古赤取入置可被成候、右ニ付昨便ニ申入置候、今日五千〇取入被成候筈ニ存居候、

一昨便之注文 七百五十匁差直

一今日十一日 改三千 明日相庭ニテ

右之通無相違取入可被成候、払方之儀ハ京地相庭ヲ以執斗被成候

於京地追々払方致し候間、売過ニ相成候、於御地改七千〇是非く無油断取入被成候、為念申入置候、取入方払方兩方とも差直被成候

一、古赤当地相庭随ひ取斗被成候段、誠ニ大悦ニ存候、無油断懸引可被成様頼入候、乍併前文中申入候通り最早改七千程売過ニ相成候間、於御地取入方執斗可被成候、相庭高下之儀ハ御地振合時々御尋執斗可被成候

一、於御地古赤下落之節、取入置渡し方入用之節払方被成候ハ、多少利益ニも相成候哉察入候、篤卜御深考可被成候、懸引可被成候

十月十一日

金 七拾壹匁壹分

中 廿匁

赤 七百三十匁

跡弱氣

十月十二日(二代目吟右衛門筆)

古赤を取入て外金を貸金に

一、入替ニ古赤取置、外金貸金十一月限、打ち済ニて右入替取組可被成候、古赤取置被成候ハ、渡し方入用之節、
払方被成候、外金ニ致し渡し金被成候ハ、遊金も利足ニ相成候間、篤卜御深考可被成候
一、^⑤此度入替之儀申来り候間、則左之通り取組可被成候、

一赤三千預り

十一月限 貸金三千〇

打 六拾両先取ニて

一赤二千預り

外金二千〇貸金

十一月限 打六拾両取置

右ニて取組可被成候、於御地有合金ニて貸金可被成候、若又持合も無之候ハ、明日相庭ニ古赤払方可被成候、
左候ハ、外金出来候、何れ御地之持合金ニて取斗可被成候、当地歩合申合宜敷候間、京地ハ出金不致候間、此段
左様御承知被成候

十月十三日(二代目吟右衛門筆)

京金相場・古赤売払い

京十三日

七拾壹匁三分

金千取入

赤 七百匁

三千匁

一、古赤取入被成候間、金子不足ニ相成候間、下し金可致候趣申来候得共、昨便ニ申入候通り古赤払可被成候、御地遊金ニ相成候間、下し金不致候、乍併時借りも氣之毒ニ存候間、為替出合有之候ハ、取組被遣候、成丈古赤払方被成候、御返金被致候、右申入度候

一、御地古赤相庭、振合考、払方是非ノ可被成候、損毛在之候共不苦候間、払方被成候、六百五十匁迄取入、京今日払七百拾匁、差直取共不掛候、今日払方心組ニて七百拾匁ヲ払方申遣し候得共、不出合残念ニ被存候、御地も明十四日京地引連れ下落ニ察入候間、程能払方差直可被成候、何れ多少共払方可被成候

十月十五日

京金相場・古赤売買の目安指示

十五日

七十壹匁四分貳厘

赤 七百五匁

中 廿五匁

◎ 四分五厘

昨十四日御尊書、難有今朝拝見仕候、古赤七百匁御差直被成候得共、払不懸候段、被仰下承知仕候、昨便ヲ以御地氣配ヲ以取払共、被成候様申上候得ハ、御承知被下候と奉存候、下直ならハ払御見合被成方可然存候、下店も七百匁内取入之心得ニ御座候

十月十六日

京金相場・貸金の期限設定について・古式朱金引替

十六日

七十一匁四分六厘

三千取入 赤 六百五拾匁

◎ 四分四厘

一、入替貸金之儀ハ^①方々来り候得ハ

式千両 十一月限

三千両 十二月限

右御取組被成候趣申遣し被成、承知仕候、右ハ都而貸金十二月晦日限者、不好事ニ御座候、是ハ当年ニ不拘前々より振合ニ御座候、十一月晦日返金受取金ハ遣ひ能、戻り金ハ使ひ口多く都合能御座候、十二月晦日返金受取之儀ハ戻り金ハ春越ニ相成候、遣ひ方悪敷候、使ひ口不都合ニ御座候、此段御心得被成候、尤紀正方ハ十二月限注文ニ御座候、此方からハ不好候得とも無抛取組申候様申遣し、御主人様之御文通、御一覽可被成候等ニ察入候、右御心得迄申上候、左ニ御承知被成下候、乍併竹川方取極メ被成候間不苦候、以後為心得申遣し置候

舌代 (二代目吟右衛門筆)

一、大坂表古式朱金引替両替被仰渡候趣、於当地承り候間、当時取扱共見合可被成候、世間振合考而差図致し候迄、取扱無用ノ、為替無相違取組渡し方無相違可被致候、右申入度候、以上
古式朱金、七両式分宛御引替御触有之候趣承り候、早速振合しらせ可被成候、以上

十月十七日(二代目吟右衛門筆)

京金相場・大坂紀州屋敷へ千弍百九十七両弍分納金

十七日

七十卷匁六分

六千〇取入

赤 六百匁

中 五十匁

舌代

一、千弍百九十七両弍分

堀越角次郎為替

坂七十五

十月十五日限

大坂幸橋

紀州様御屋敷納メ

右金子手形振出し有之候共、御屋敷へ持参り納方可致候訳柄ニ者無之候歟、炭安、紀正へ御尋被成、御屋敷へ尋行宜敷訳柄ニ御座候ハ、早速御尋ニ御出被成候、不都合無之様納メ方可被成候、日限も記し有之候事ゆへ、金子持行手形引替可致候訳柄ニ察入候間、早速問合可被成候、尚又御屋敷方御案内有之候訳柄ニ御座候歟、右等之儀両替屋ニて御尋被成候、不都合無之様収メ方可被成候、定而右金子心当ニ預ケのけ置被成候哉ニ察入候、日限ニ到り御沙汰も無之候間、一入心配ニも察入候間、委敷都合可被成候、御屋敷様方町人と違候間、振合早速炭安方ニても御尋被成候、紀州様へ御立入し両替屋も有之候間、定而炭安方振合御存知ニ御座候間、早速問合、否哉

御聞七可被成候、不都合無之様御執斗專一ニ御座候

十月廿一日

京金相場・江戸為替取組

廿一日

七十壹匁五分五厘

赤 五百七十四匁

中 百四十匁

昨十九日出御状、今朝相達忝拜見仕候、然ハ一昨便ヲ以為替受払申上候ハ、御承知被下忝奉存候、右受払方江戸為替五千々壹万〇位御取組可被成候様申上候、定而御承引被下候哉と奉存候、右打銀高直ニ候ハ、御取組ニ不及候、何れとも御返事被成候、若取組ニ不相成候ハ、前日御案内可被成候、差而入用も無之、余分為替取組被成ニも不及、打銀下直ニ候ハ、可然執斗ひ可被成候

十月廿七日

京金相場・稲西、外村との古式朱金の預貸

廿七日

七十式匁

二千払 赤 五百六拾匁

昨廿六日出し忝拜見仕候、然ハ御地古赤一条、段々御心配被成候趣、具ニ承知仕候、必御心配ニ不及候、伊勢藤方モ大丁(五千両)㊦方へ御振替可被成候

舌代（二代目吟右衛門筆）

一、古式朱金

五千兩

炭安殿の出分

竹川方へ渡し置被成候

右ハ霜月限竹川方入替預り金ニ御座候間、右同人竹川方へ預ケ金可被成候、若又紀正へ預ケ置被成候ハ、何れニも不苦候、紀正方世話入替候分、霜月限、右ハ紀正方へ矢張預ケ置ニ被成置候、尚又炭安方残り二千〇有之候ハ、紀正へ預ケ置被成候ハ、宜敷察入候、右紀正方にて右之訳柄咄し置被成候

一、当月限

紀正殿方三千兩

京請取之約定

右ハ御地方為登方敷敷御座候趣候間、無致方、矢張右同人方へ預ケ置被成候、京地者何れニも可致候間、於御地預り方致し被置候、若又両替へ預ケ置六ケ敷御しらべニ候ハ、稲庄、外村、右方へ預ケ置被成候共宜敷候間、紀正方へ御談合可被成候、不都合無之様御咄シ合被成候、外へ預ケ置被成候ハ、稲正、外村両家へ頼遣し被成候、若又炭安預ケ金式朱金二千〇彼是六ケ敷候ハ、御定之御手当七両式分宛ニ相成候共不苦候間、引替被成候、右ハ貞助（伊勢屋）様へ御談合可被成候、万一之節ニも相成候ハ、外へ預ケ金可被成候、先ハ右申上度、如此御座候、早々以上

十月廿八日

京金相場・古赤取引の懸念広がる

廿八日

七拾匁壹分三厘

赤 五百廿匁

中 拾壹匁

ホ 五分五厘

一、㊦黙兵衛殿御店へ御出被成、古赤返濟方御心配被成候段、悉細被仰下、具ニ承知仕候、幸ひ今朝伊藤殿方にて宜敷出合、為替有之候間、取組手形振出し申候

覚

古式朱

一式万両也

当店印元

伊藤為替

御店渡り

右之通り手形振出し申候、今朝仕立便りヲ以差立申候、無相違御渡し被下候、然ル所㊦方御心配被成候、行違ニ京店入御返金被成候趣、左候ハ、手形分不足仕候、何れニ成共、時借被成候て、御渡し方可被成候願上候、万一古赤不足致し候ハ、何方へ時借り被成候共、無相違渡し方可被成候、為念申入度候、以上

十一月朔日

伊勢藤との古赤取引の疑念

先方大坂にて赤入用申被成候ニ付、過ル廿八日当地を赤為替取組式万両手形振出し候所、御承知被下、御渡し被下候段安心仕候、併為替之儀故、古赤御渡し可被成下様之当店を之差図ニ御座候、御店にて伊藤殿方被申候様ニ被成候間、右之振合ニ相成候、先便来状之文、御店にも合点不行様之文面にて、当店ニ読はんじ六ヶ敷事ニ御座候、

今便ニ返ス、御断御念状ニ預り承知候、全ク御手馴不被成候所へ伊勢藤計略被成候儀ニ御座候、節季ニ候間同人殿顔ニテハ六ヶ敷候ニ付、拙店之顔ニテ被成候儀ニ御座候、委細之儀ハ伊勢藤江申入候間、左ニ思召可被下候、御店御立腹之段、御尤ニ奉存候、此儀宜敷御暖居可被成候、以来氣ヲ落附御執斗可被下候段、御心配被成候段具ニ承知致居候間、左ニ御安意思召被下候

十一月七日巳の刻

伊勢藤休店の第一報

態々二時限仕立ヲ以申上候、当地両がへ伊勢屋藤兵衛殿、今朝店ヲメ休商売被成候、扱々不如意之事、実ニ当方も十方ニ暮居候、右同人へ貸金拾貳万両斗り御座候、可申様も無御座候、乍併当店為替受払ハ差支無之様、御同前ニ仕度候間、御地ニ而江戸之為替渡方、無滞相渡し可被成候、代り金之儀ハ御地々、江戸為替打銀ニ不拘取組可被成候、乍併打銀ニ不拘出合無之候節ハ、京店へ為替振向可被成候、尤京店へ成共万甚殿へ成共、手形振向可被成候、万甚殿へ印鑑壹枚御遣し可被成候、可相成者当店へ為替振向可被成候、右伊藤成行ニ御座候間、上方金子払底ニ相成候間、前文申上候、追々為替江戸店へ振向可被成候、江戸店ニハ日歩ニ而預ケ金沢山ニ有之候間、打銀ニ不拘為替振向可被成候、尤も江戸店へハ当店より今朝三日限ヲ以、右之条申遣し置候間、定而金高何程ニ而も無差支渡し方可被成候等ニ御座候、御地ニ而為替取組、遊金出来候ハ、当店よりも御地へ為替振向可申候、此段御心得置可被下候

- 一、右成行故、申上迄も無候得共、伊藤殿誰人被參候共必ス金談取組不相成候、此段為念申上置候
- 一、右成行、御地三軒之衆へ程克御断合可被成候、当店儀ハ諸請払、㊦方ニ而無滞可致候間、此段御安心可被成候、

先ハ右態申上候、江戸為替情々沢山取組可被成候、諸用向何れ今夕出口ヲ以万々可申上候、早々以上

一、追啓申入候、為替渡し方江戸為替打銀不拘取組渡し方可被成候、万一為替出合無之候ハ、京都へ為替取組可遣候、右為念申入度候、以上

十一月七日(二代目吟右衛門筆)

伊勢藤休店の報知と対処法の指示

舌代

一、伊藤休店被成候間、差掛り渡し方ニ迷惑致し候間、大坂三家ニて御地渡し方別段頼入被成候、江戸為替取組不都

合無之候様執斗可被成候、打銀高直ニ御座候共不苦候間、此段心得置被成候

一、十二日分七百両渡し方、右ハ来ル十二日限取組被成候

追々申入候通り紀正殿当月限古赤三千〇入替此分利足返金致し、外金只今御返金被成候様御執斗被下候様御談合可被成候、外ニ紀正殿銀七十メ目、此分当時御返銀被下候ハ、大ニ手廻りよく候間、何卒〳〵都合能御相談可被成候、当分手違凌度候間、右ハ江戸為替無之ハ、右之振合致度候、損徳ニ不拘何方へも無差支致し度候間、其旨心得被置候、万一無致方節も有之候ハ、為替渡し方御方様へ江戸為替打銀差出し、組戻しニ被成候共、何れへも都合能執斗頼入候、先ハ右申入度候、以上、万一之節ハ時借被成候共、又ハ京為替取組被成候共、都合能執斗可被成候、以上

十一月七日

京金相場と伊勢藤休店の当惑

七日

七十式匁六分

赤 百六拾匁

中 四匁

◎ 四分九厘

今朝仕立ヲ以申上候、当地伊勢藤殿戸メ被成候ニ付、拙店ニハ多分入置申候、差当り受払差支申候、何分御地カ
為替御受故、江戸為替可被下候、打銀之儀ハ不苦候、右伊藤方右様ニ候間、大当惑仕候

一、今日夕舟ニ芳兵衛殿態ト下坂被成候間、万事御相談可被成下候、逐一御聞取可被下候

尚追々用向奉申入候、差当り為替渡し方当惑仕候、情々御心配可被成下候、先ハ右申上度如此御座候、早々以上

竹川出分、伊藤手形先便差下し申候

貳千両 壹

七百兩 壹

右ハ迎も埒明兼候、不渡り差戻、手形ハ大切ニ御座候、明便差為登被成候

十一月八日

京金相場・伊勢藤休店の打撃

近江商人小林吟右衛門家の経営書簡集（抄）九

八日

七十三匁三分

赤 三百匁

中 四匁

◎ 五分七厘

然ハ昨七日戌刻出し御状ハ夜七ツ時ニ着致し申候、甚延刻、京ヲ仕立も同延引ニ付、返事間似合不申残念存候、昨夕舟ニテ芳兵衛殿御下り被下御苦勞存候、為替方十二日迄差引八千七百兩御座候所、※、㊦方ニテ江戸為替御取組渡し被下候段、大井安心仕候、十二日迄九千兩渡し有之候得共、八千七百ハ定而持合之都合と奉存候、大ニ安心仕候、㊦方三千〇、貸金七千メ昨日申入候通り、利足不構御戻し被下候様紀正殿ヲ御願被下候様、御執斗被下候、尚又稲西屋赤為替之所も右當時之振合ニ候間、利足思召丈ケ差出し延引被下候哉、御相談下被成下候、伊藤方昨今之事ゆへ、何共不訳當時差当困入候、江戸行仕立便り仕立当十日ならてハ着不仕候、夫迄取組參候哉も難有、當時凌度候

——前略

右ハ伊印丸埋^{つぶ}れニも不成候様承知致候、誠ニ此度不存寄事、昨日只当方ニ暮候、今日ハ用向も多く、いやはやくひしもなえはり合もなく男なきニ御座候、定而御地ニも同様察居候

十一月十二日

京金相場・伊勢藤關係債権者の寄合

十二日

七十二匁

赤 三百匁

中 壹匁

一、伊藤方一条ハ、かし方衆段々寄合評議ニ御座候、先只今実意対談ニ相成候、かし方跡商売仕候様之嘶合ニて取立被遣候、追々振合奉申上候、左ニ思召可被下候、何程と申事も無之候、先ハ右申上度如此御座候、早々以上

十一月十三日

京金相場・古赤の正金積み下し

十三日

七拾壹匁九分

赤 貳百六拾五匁

中 壹匁

一、古赤貳千両、右者正金ニ而万甚々大坂店向を天吉便り今夕差下し申候間、其着御改御入手被成候

右之通り今便差下し申候間、其着御入手可被成下候、尤右赤之義万甚被申候ニ者、大坂へ封金差下し候而も存不寄替金戻し候ニ付、店ニ而立会相改可被成候、立会ニ而其場所ニ而替金有之候ハ、包紙相添早速為御登被成候

十一月十六日

京金相場・江戸伊勢嘉への貸金・丁吟の経営危機への懸念

十六日

七拾貳匁三分

赤 貳百三十匁

中 五分

ホ 五分五厘

一、江戸霜月十一日出仕立便、昨日到着仕候、江戸伊勢嘉殿へ金五千両也日歩かし有之、其外ニ金七様も御承知金五千両也、為登為替有之、扱々重々諸方ニ而懸り合セ有之、何共申様も無之心外之事ニ御座候、乍併情々ハ懸合談合可仕候得ども、何分た、今之姿ニ而者頓ト致方無御座候、此段奉申上候

一、※方ハ当分江戸下し金ハ正下し故為替出合無之趣被申候段、御尤ニ奉存候、右炭安殿ニ不拘何方ニ而も当時之内、当方ニ為替相願尋合セ之儀も暫ク御見合セ可被成候、先方も当店を危被成候族も有之候間、必ス御心配なく金子入用丈ケハ京店へ御申越被成候、何時ニ而も差下し可申候、最早為替渡方も山相訳り候間、御同前ニ安心仕候、乍併先方ニ御頼ニ御越被成都合克キ出合為替有之候ハ、其時之振合ヲ以御取組可被成下候、其内追々江戸表之繰合セ之も相訳り可申候、右之訳睨御含置可被成候

十一月廿一日

京金相場・古赤十万両引替の報

廿一日

七拾貳匁五厘

赤 百九十匁

ホ 五分

中 五分

一、古赤御引替之儀、於京地近日相始り可申候趣、炭安定助様より御聞取之趣、尤金高拾万兩程之趣被仰下難有奉存候、大ニ得心ニ相成候、当店杯ニハ取込候ニ付頓卜尔今不承候

十一月廿三日

京金相場・大坂店閉店の内意

廿三日

七拾貳匁貳分九厘

赤 貳百六十匁

中 壹匁

ホ 四分九厘

一、大坂店之義も殊ニ寄来月ニも相成候ハ、店ハ引取候哉も御主人様御申可被遊居候間、取極り之上可申上候へ共、乍序一寸申上置候、外方へ御嘶ハ御無用被成候、心得迄申上置候、付而者別紙御主人様申遣し之通り双方取引埒明ケ御礼廻り致候、堺町為登もの、義も、前簾追々心懸ケ差図之通り損じもの等者夫々氣ヲ付、荷造持登り之積り可被成候、先ハ右之段申上度、余ハ重便如是御座候、早々以上

十一月廿六日（二代目吟右衛門筆）

大坂店閉店に際しての後始末の指示

舌代

——前略——

大坂店入替埒明キ候ハ、前日々店取片付、一先皆々上京可被成候、尚又前以紀正御主人様、長兵衛様、※定助様右之方へ訳柄咄し被置候、竹川方へも右之訳前日ニ被咄置候、但し諸弘小買物弘方、前以埒明ケ置被成候、跡へ残り候分ハ紀正殿方へ頼置被成候

一、諸道具、※定助様預り置被呉候ハ、荒道具預ケ置被成候、尚又瀬戸物杯ハ紀正様へ預ケ置被成候共、又ハ進上被成候共、執斗可被成候、家賃之儀ハ紀長様へ御任セ置任差図御執斗被致候

紀正様へ前以御談合人別引取、尚また鶴満寺様も御礼ニ答置可被成候、何れ近日御礼ニ可罷出候間、双方へ右之咄し被致置候

十一月廿八日 (二代目吟右衛門筆)

大坂店閉店に際しての訓示

極内々申入候

一、大坂店、元より北ノ方ニ三間三間柱入有、土蔵不宜候間、兼々心懸候間、一度取付退去可被成候、勿論京店も不宜敷候様乍存知、店之者彼是申候間、無扱任其意、時節相待罷存候得共、此度之大災難於江戸店格別之心配災難、江戸筆紙ニ難尽訳ニ御座候、誠ニ只今無致方、何卒〳〵御地店之儀ハ当分之事故、一度退去可被成候、又々無程時節到来も可有之候間、其節双方へ願入度候、当時差掛り不用ニ相成候、身上之儀ハ当分、外間より始終之行届キ候ハ、自然、人々感心致し候、取引ニ不自由無之候、無智輩者ハ当分而已被思候、恥敷被存候族ハ早々上京被致候、殊ニ寄候ハ、中久様御下坂被成候共又ハ此方出坂致し候共、右之訳柄逐一双方へ申上度候、立鳥も跡をにごすな、第一之御事ニ御座候、

一、我等幼年方時々不時ニ出逢候得共、其節之任振合小心ニ相成居候、自然追々手広ニも相成候、此度之儀ハ大災難心外之訳ニ相成候間、篤卜相考被成候

十一月廿八日

京金相場・大坂店閉店の報知

廿八日

七拾貳匁叁分三

赤 貳百四十匁

中 壹匁

一、御店之儀一先引払之儀、徳兵衛殿より承り候得共、引払之儀御主人様始中久様幸兵衛様共一統ニ御同意ニ御座候間、必ス御無心配引払可被成候、尤も㊦、㊧、㊨、㊩、㊪、㊫、㊬、㊭、㊮、㊯、㊰、㊱、㊲、㊳、㊴、㊵、㊶、㊷、㊸、㊹、㊺、㊻、㊼、㊽、㊾、㊿、(宮津藩)御屋敷の方へも此度之成行御咄し之上、御取引極メ被遊候方、却而都合克キ様御主人様も被仰聞候、委細之儀ハ徳兵衛殿方御聞取御執斗可被成候